

自分の命は自分で守る。そのためにできることをしよう

風水害に備える

平成 30 年 7 月豪雨では、広島や岡山など西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨となり、河川の氾濫や浸水害、土砂災害が発生し、大きな被害を受けました。この豪雨の教訓から、災害情報の発信方法が見直されました。

また、磐田市でも昨年 9 月末の台風 24 号の影響により、大規模な停電が起きました。台風や大雨の季節が来る前に、しっかりと準備をしておきましょう。 ④危機管理課 ☎ 0538-37-2114 FAX 0538-32-0177

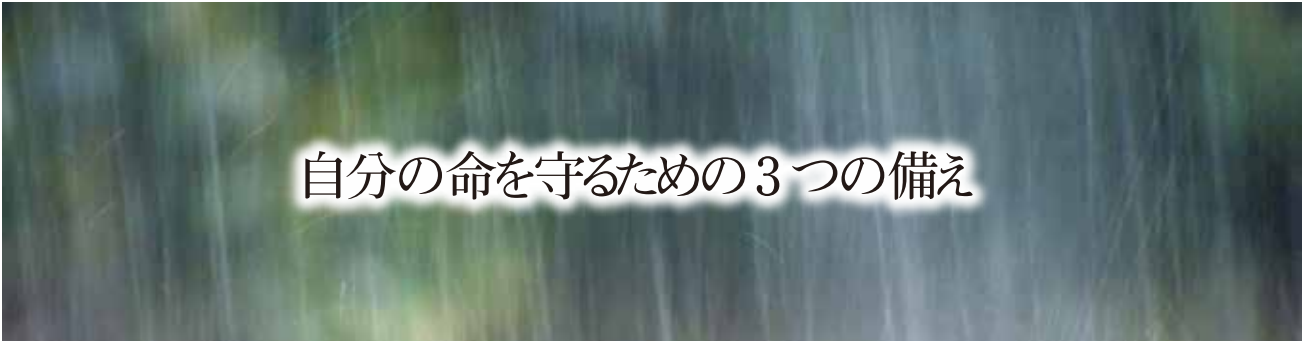
災害情報の発信方法の変更

内閣府では、平成 30 年 7 月豪雨などを踏まえ、平成 31 年 3 月に「避難勧告等に関するガイドライン」の見直しを行いました。これにより、洪水、土砂災害、高潮、河川の氾濫などの際に、住民が取るべき行動を直感的に理解できるように、災害情報を 5 段階の警戒レベルに分けて伝達することとなりました。

伝達文の例（同報無線・いわたホットラインなど）

「〇〇地区に洪水に関する警戒レベル 4、避難勧告が発令されました。〇〇地区の方は、速やかに全員避難を開始してください。」

	[警戒レベル]	[取るべき行動]
緊急度 ↑	警戒 レベル 5 災害発生情報	命を守る 最善の行動 既に災害が発生している状況であり、命を守るための最善の行動をとる。
	レベル 4 避難勧告・避難指示(緊急)	全員避難 速やかに避難場所へ避難開始。外に出るのが危険なときは、崖から遠い部屋や 2 階へ避難する。
	レベル 3 避難準備・高齢者等避難開始	高齢者などは 避難 高齢者や子ども、障がい者などの避難に時間がかかる人とその支援者は、避難を開始する。それ以外の人は避難の準備をする。
	レベル 2 注意報	避難行動の 確認 避難する場所や経路、避難のタイミングなどを再度確認し、避難に備える。
	レベル 1 警報級の可能性	災害への 心構えを高める 気象情報や災害情報などの最新情報に注意する。



自分の命を守るための3つの備え

1. 情報収集手段の備え

1. 市ホームページ

指定避難所やハザードマップなどを掲載しています。あらかじめ確認しておきましょう。

ページ番号
1001124

2. メール配信サービス「いわたホットライン」

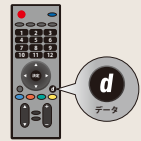
台風への注意喚起や避難所開設の情報などをメール配信します。また、同報無線が「聞き逃した」「風雨で聞こえなかった」ときでも、放送内容を文字で確認できます。



◀メール登録はこちら

3. テレビのデータ放送

リモコンのdボタンを押すと、気象情報や災害情報などを見ることができます。



◀リモコンのdボタン

4. 磐田市公式SNS（フェイスブック・ツイッター）

磐田市のさまざまな情報を発信します。災害時は、災害状況や避難所開設情報も掲載しています。



◀SNSの閲覧はこちら

3. 土のうの備え

ページ番号
1001148



大雨に備え、自分で土のうを作り、持ち帰ることができる「土のうステーション」を西庁舎北側と各支所に設置しています。利用方法など詳しくは、市ホームページをご覧ください。道路河川課へお問い合わせください。

☎道路河川課 ☎ 0538-37-4808 FAX 0538-32-3948

2. 非常品の備え

避難しなければならないときに持ち出す「非常持出品」と避難後の生活を支える「非常備蓄品」に分けてリュックサックなどに入れて備えましょう。

①非常持出品の一例

飲料水（ペットボトル500ml）、食料（おにぎりなど）、懐中電灯、常備薬など救急用品、ヘルメット（防災ずきん）、スリッパ、毛布や寝袋など簡易な寝具

②非常備蓄品の一例（1週間分）

飲料水・食料（7日分用意し一部は持出袋に入れておく）、毛布、寝袋、携帯充電器、食品用ラップ、衣類・下着など
※停電に備え、スマートフォンなどを充電できるモバイルバッテリーを備えておく安心です。また停電により水道が使用できない地域もあります。トイレが使えないことを想定し、簡易トイレ（携帯トイレ）も備えましょう